

2026年最新：知財AIプラットフォーム比較 — 欧米vs国内、選定の決定打

欧米・国内プラットフォームの主要比較



欧米勢：訴訟・FTOを含む
広範なライフサイクル統合

Patlytics等、侵害分析からOA対応まで
を同一基盤で連結し、欧米出願に強み。



国内勢：JPO実務への深い適
合とR&D現場の使いやすさ

サマリアやAI Samurai等、日本の特許
実務フローや発明者向けUIに最適化。

主要欧米ツールの専門領域とAgentレベル



IPRally Agent

グラフAIによる特徴単位の根拠追跡

L2

(ワークフロー型)



Patlytics

侵害・FTO・OAの全工程統合

L3

(ツール使用型)



Lightbringer

弁理士付き固定価格マネージドサービス

L4

(専門家一体型)

AIエージェント成熟度（L0～L4）の定義



規則検査(L0)から、ツールを跨ぐL3、弁理士付きのL4まで責任範囲が異なる。

日本企業の実装戦略

「ベスト・オブ・ブリード」によるツール連携



検索母集団の
圧縮（国内勢）



重要案件の精密
検証（IPRally等）

検索母集団の圧縮（国内勢）と、重要
案件の精密検証（IPRally等）を分離。



**弁理士・専門家による
承認ゲートの必須化**

AI出力は「校閲記録付き素案」とし、
法務的最終判断は必ず人が行う。



ClaimMaster等による決定論的QAの維持

生成AIを補完する形で、用語統一や符号等の形式的エラー検査を別工程で実施。